

令和3年度 さいたま市民意識調査 (概要版)

<調査項目>

在住者意識調査		在勤者意識調査
①地域での生活	⑤新型コロナウイルス感染症	①さいたま市のイメージ
②さいたま市のイメージ	⑥SDGs	②市内での活動
③市政との関わり	⑦今の地域を選んだ理由	
④市政への満足度・重視度		

<調査のあらまし>

	在住者意識調査	在勤者意識調査
調査地域	さいたま市全域	さいたま市全域の事業所
調査対象	さいたま市在住の満18歳以上の男女	さいたま市外からさいたま市内の事業所に通勤する満18歳以上の男女
調査対象数	5,000人	2,000人
抽出法	住民基本台帳に基づく層化多段無作為抽出	市内の事業所を無作為に抽出し、事業所を通じて個人への調査を依頼
調査方法	郵送配布・郵送回収法	
調査期間	令和3年6月1日～令和3年6月18日	
回収結果	有効回収数 2,642	有効回収数 598

<概要版の見方>

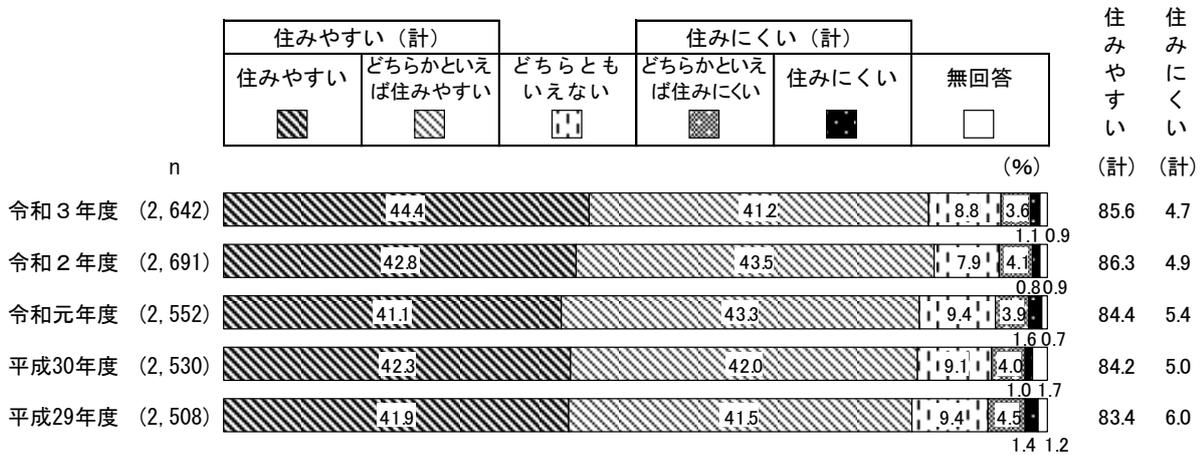
- 図中の「n」は、各設問の回答者数を示します。
- 調査結果の比率は、nを基数として百分率の小数第2位を四捨五入して算出しました。そのため、すべての比率を合計したときに100.0%にならないなど、各項目の比率と、その合計が一致しないことがあります。
- 図中で、在住者と在勤者の比較をしている場合は、在住者の順位を基準に示しています。
- 図や文章中の選択肢の表記は、場合によっては語句を一部簡略化して示しています。



★さいたま市は「住みやすいまち」ですか。

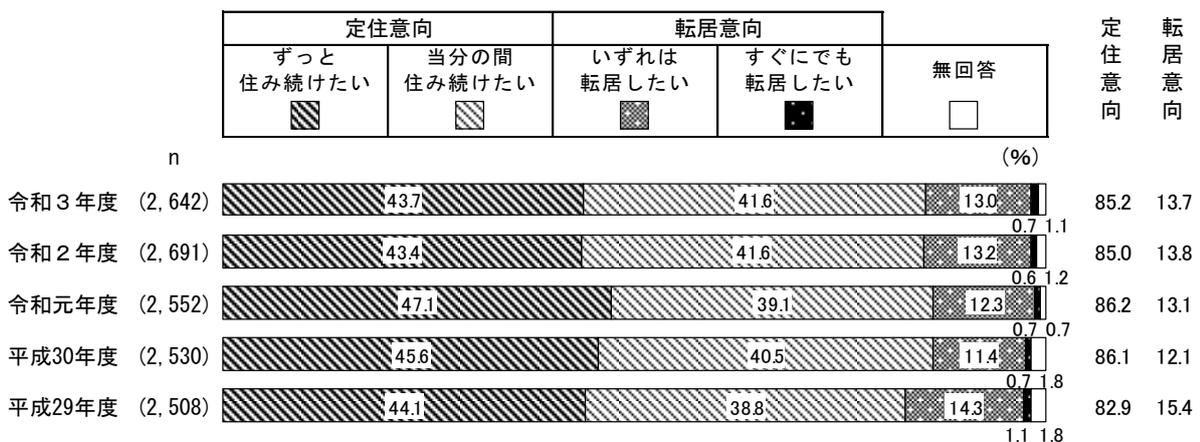
■住みやすい人は 85.6%

在住者が感じる地域の住み心地は、「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」を合わせた『住みやすい（計）』は 85.6%で、8割台で推移している。



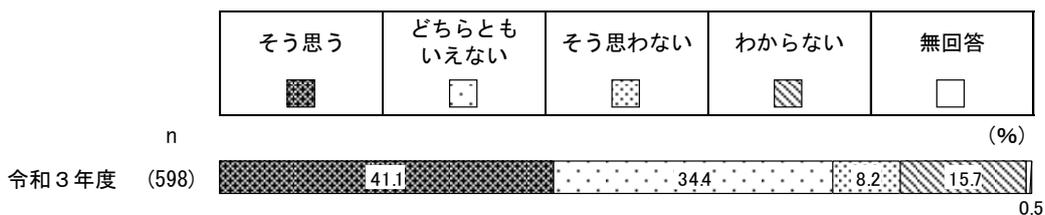
■住み続けたい人は 85.2%

今の地域に「ずっと住み続けたい」と「当分の間住み続けたい」を合わせた『定住意向』は 85.2%で、8割台で推移している。



■「住みやすいまち」だと思う人は 41.1%

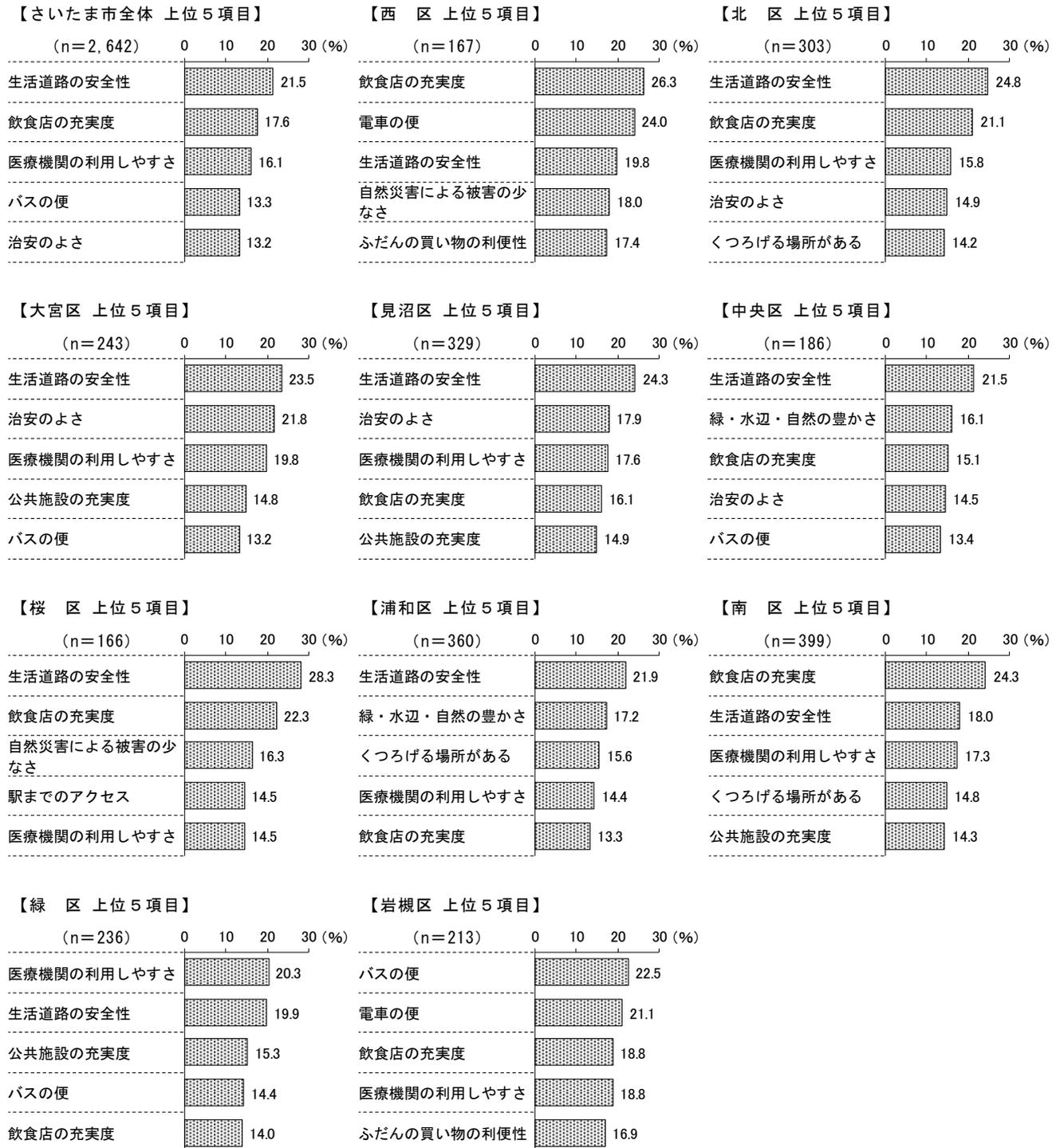
在勤者に、さいたま市は「住みやすいまち」だと思うかを聞いたところ、「そう思う」は 41.1%となった。



★お住まいの「地域」が、今後どのようになればよいですか。

■「生活道路の安全性」が、10区中6区で1位

お住まいの「地域」の発展の方向性を3つまで聞いたところ、「生活道路の安全性」が10区中6区で1位となり、岩槻区を除き3位以内に入った。また、「飲食店の充実度」は大宮区を除く9区で、「医療機関の利用しやすさ」は西区、中央区を除く8区で上位5項目に入った。

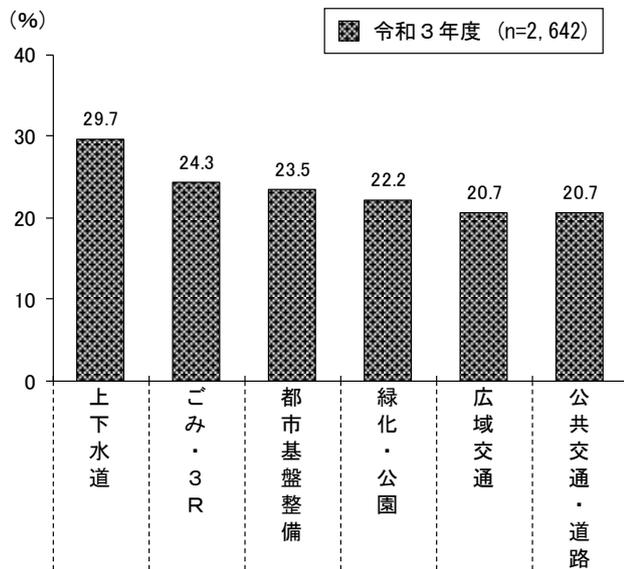


★「さいたま市」が行っている施策や事業の満足度・不満度(上位6項目)

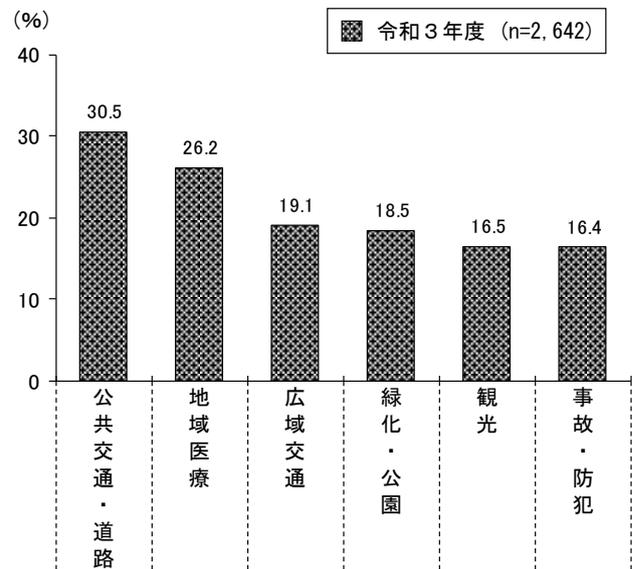
■満足度1位は「上下水道」、不満度1位は「公共交通・道路」

各施策や事業の満足度を聞いたところ、満足度は、「上下水道」(29.7%)、不満度は、「公共交通・道路」(30.5%)が最も高かった。

【満足度 上位6項目】



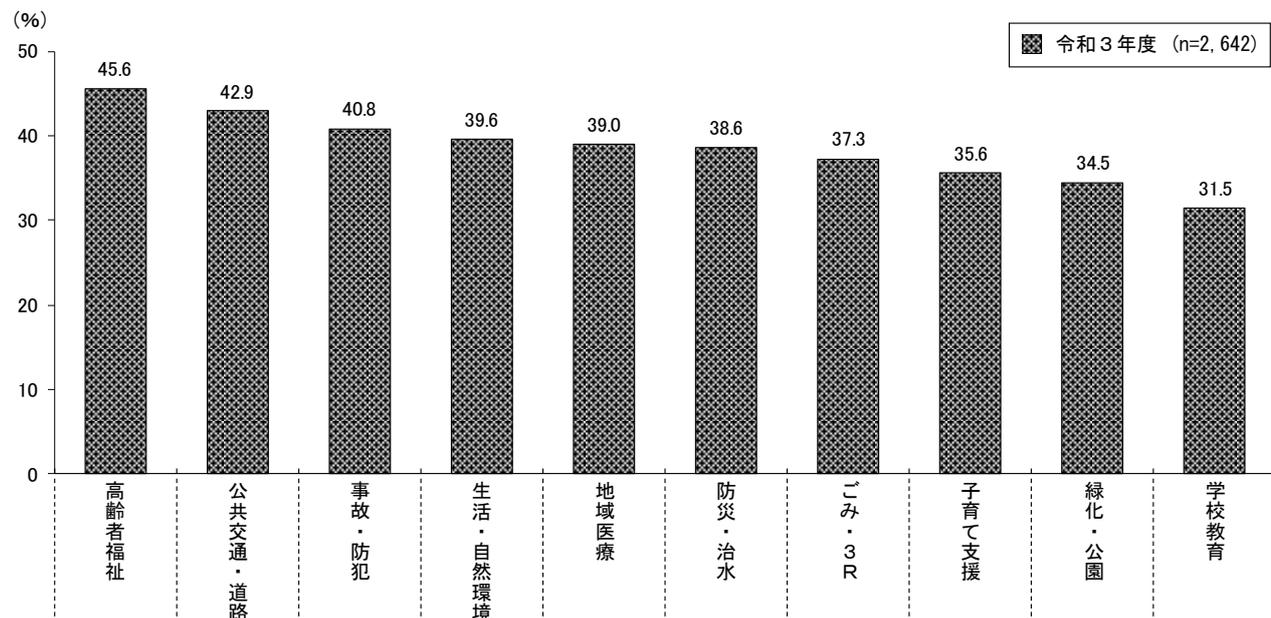
【不満度 上位6項目】



★今後、力を入れてほしい施策や事業(上位10項目)

■「高齢者福祉」が45.6%

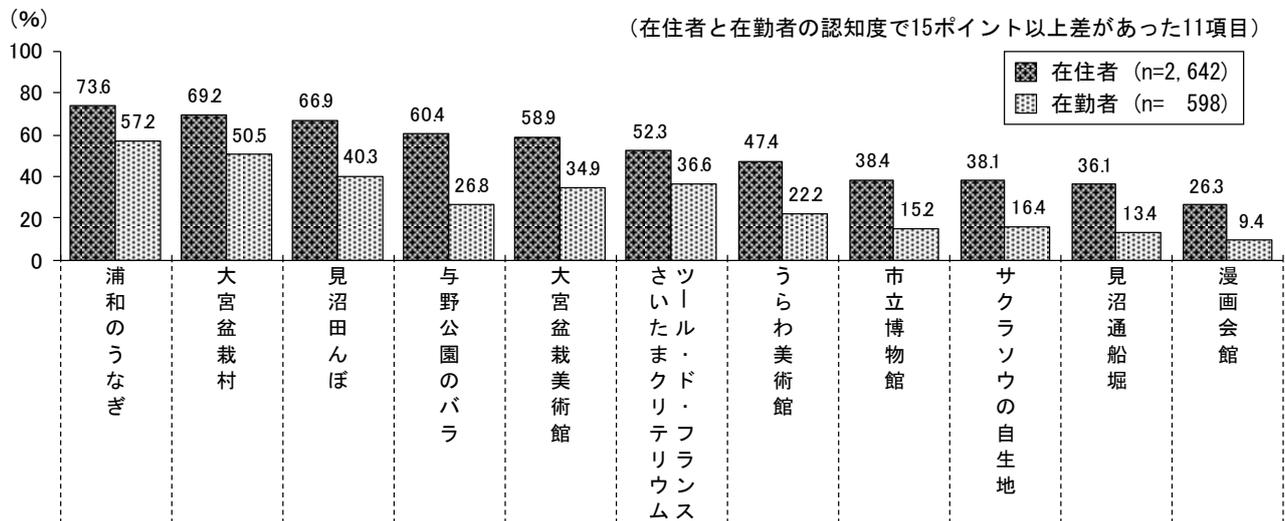
今後、力を入れてほしい施策や事業を聞いたところ、「高齢者福祉」が45.6%で最も高く、「公共交通・道路」(42.9%)、「事故・防犯」(40.8%)が続いた。



★さいたま市について知っているものは何ですか。

■認知度で在住者が在勤者を最も大きく上回ったものは「与野公園のバラ」

さいたま市について知っているものを聞いたところ、在住者と在勤者の差が特に大きかったものは「与野公園のバラ」(33.6ポイント差)、「見沼田んぼ」(26.6ポイント差)、「うらわ美術館」(25.2ポイント差)であった。

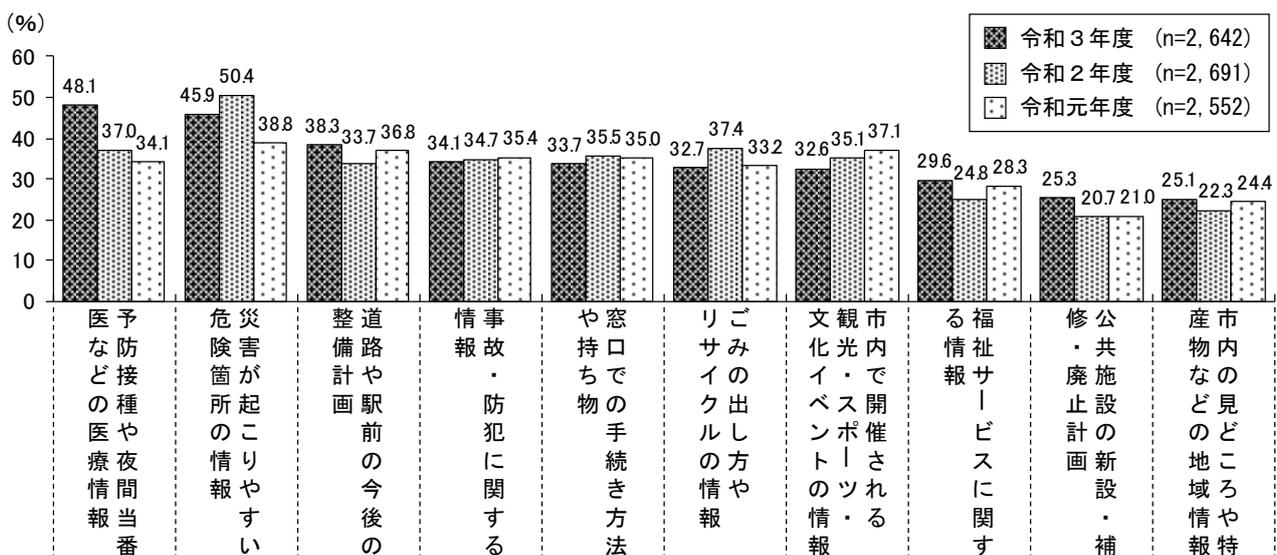


★市役所からの情報で、特に知りたいものは何ですか。(上位10項目)

■「予防接種や夜間当番医などの医療情報」が大きく上昇

市役所からの情報で特に知りたいものを聞いたところ、「予防接種や夜間当番医などの医療情報」が48.1%で最も高く、「災害が起こりやすい危険箇所の情報」(45.9%)、「道路や駅前の今後の整備計画」(38.3%)が続いた。

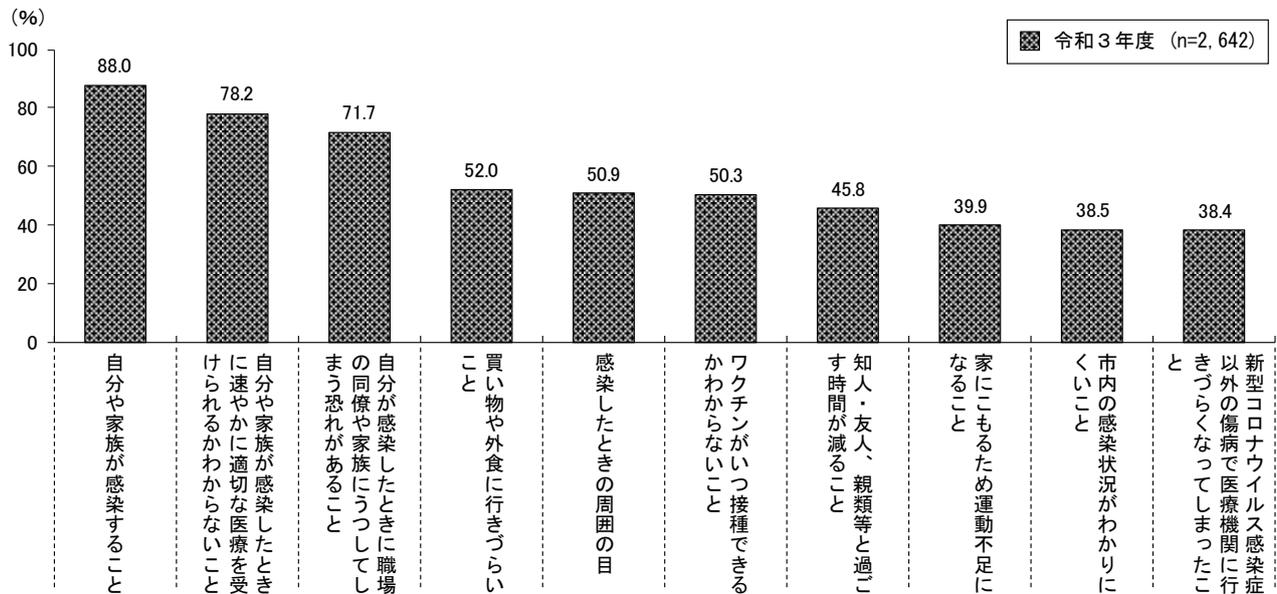
過去2年間の調査結果と比較すると、「予防接種や夜間当番医などの医療情報」が令和2年度より11.1ポイント増加した。



★コロナ禍での不安事(上位 10 項目)

■「自分や家族が感染すること」が 88.0%

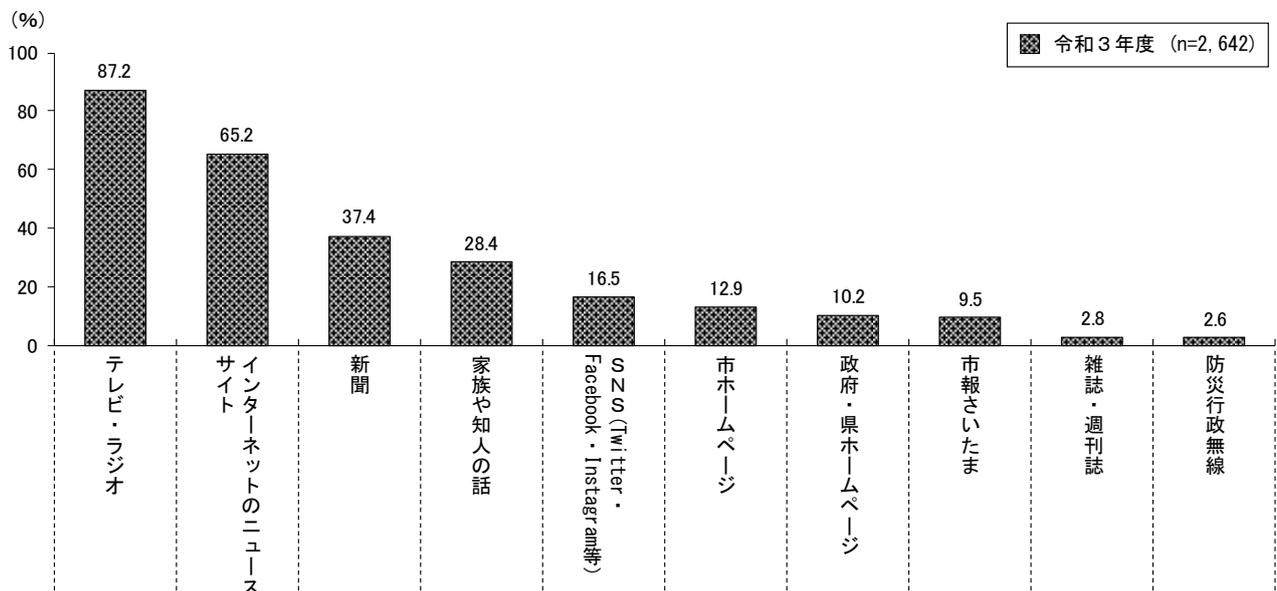
コロナ禍での不安事を聞いたところ、「自分や家族が感染すること」が88.0%で最も高く、「自分や家族が感染したときに速やかに適切な医療を受けられるかわからないこと」(78.2%)、「自分が感染したときに職場の同僚や家族にうつしてしまう恐れがあること」(71.7%)が続いた。



★新型コロナウイルス感染症に関する情報源

■「テレビ・ラジオ」が 87.2%

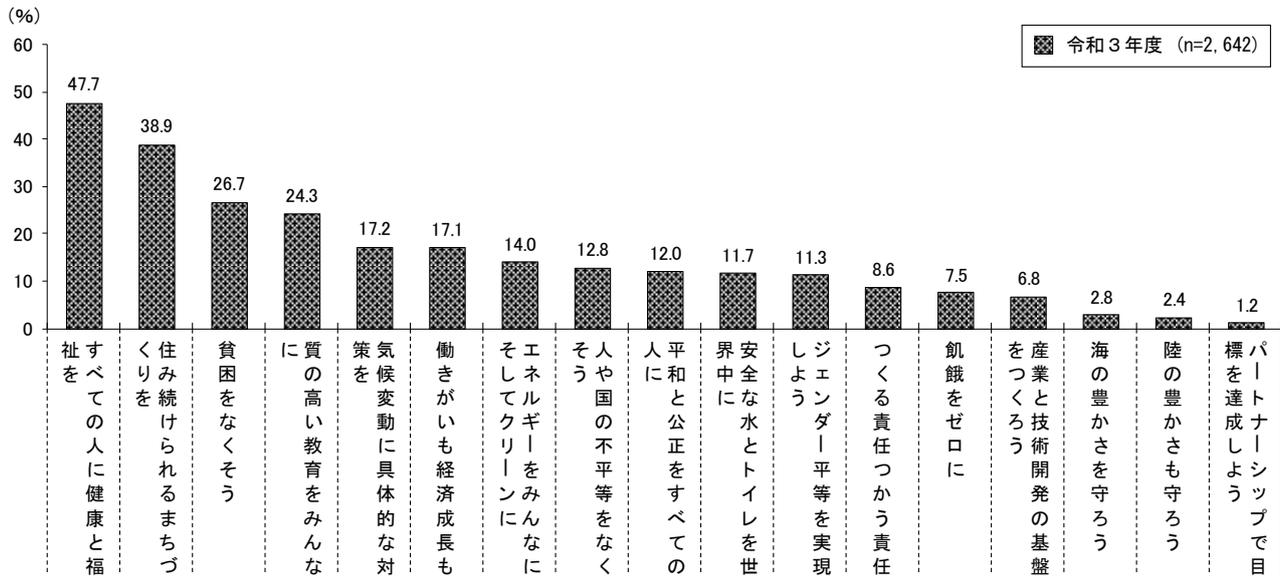
新型コロナウイルス感染症に関する情報源を聞いたところ、「テレビ・ラジオ」が87.2%で最も高く、「インターネットのニュースサイト」(65.2%)、「新聞」(37.4%)、「家族や知人の話」(28.4%)が続いた。



★SDGsで重視する目標

■「すべての人に健康と福祉を」が47.7%

SDGsで重視する目標を聞いたところ、「すべての人に健康と福祉を」が47.7%で最も高く、「住み続けられるまちづくりを」(38.9%)、「貧困をなくそう」(26.7%)、「質の高い教育をみんなに」(24.3%)が続いた。



令和3年度 さいたま市民意識調査（概要版）

発行 さいたま市 市長公室 広聴課
〒330-9588
さいたま市浦和区常盤 6-4-4

電話 048 (829) 1931 (直通)
FAX 048 (825) 0665

調査実施 株式会社 物流科学研究所
〒330-0052
さいたま市浦和区本太 2-2-36
SUNCREST 302

電話 048 (887) 3790

[このさいたま市民意識調査業務の委託に要する経費は、219万円です。]